

参考資料【過去の WAFSF の様子】

- 2014 WAFSF (2014年11月)
医療分野で著名なカリフォルニア大学サンフランシスコ校で開催。日米などから約 350 名が参加しました。なかでも、理研の高橋政代プロジェクトリーダーは、再生医療ブロガーのポール・ノフラー博士より「Stem Cell Person of the Year Award」を受賞しました。写真は満員の会場と講演する高橋政代博士。
- 2013 WAFSF (2013年11月)
山中伸弥教授のノーベル賞受賞を記念し、再生医療と幹細胞技術を取り上げた最初の WAFSF を開催。日米から約 300 名が参加し、再生医療の課題と日米のコラボレーションなどについて議論。写真は、ノーベル賞受賞者のポール・バーグ博士(左)と山中伸弥教授(中央)、そしてスタンフォード大学のアービング・ワイズマン教授(右)。



参考資料【アライアンス・フォーラム財団と再生医療について】

アライアンス・フォーラム財団は、1980年代より、日本企業とシリコンバレーの橋渡し役をするとともに、革新的な技術を核とする新産業の育成に携わってまいりました。再生医療を取り上げて3年目となる今年の WAFSF では、幹細胞技術の事業化と産業化に焦点を当て、再生医療の早期実現を目指します。

幹細胞技術を核とする再生医療の分野では、ノーベル賞受賞者の山中伸弥教授を中心とする日本の研究者が世界を牽引しており、日本政府も再生医療をアベノミクスの「成長戦略」の重点の一つに定め、研究資金の拡大や、再生医療製品の早期承認制度、特区の構想を通じ、強力で推進しております。日本の産業団体である再生医療イノベーションフォーラム(FIRM)の会員も年々増加し、本年度は既に170社を超えており、再生医療を実現化する準備体制が各関連分野で整いつつあります。

このような中、2015 WAFSF は、再生医療を推進する「オールジャパン」体制を積極的に海外へ発信し理解と協力・参加を促すことにより、日本の戦略が、日本のみでなく海外での再生医療事業を促進させる効果も期待できます。それだけではなく、アメリカをはじめとした海外の再生医療関係者とのネットワークを構築することにより新たな事業機会を発掘する絶好の機会となります。

